

租税教育実践レポート

学校名 川場村立川場中学校

1 単元 「地方自治と私たち」

2 学年 第3学年

3 単元（題材）の学習目標

○地方自治の仕組みに関わる資料を収集・選択するとともに、主権者の立場からその仕組みについて理解する。

【知識及び技能】

○地方自治の仕組みや運営に関して多面的・多角的に考察し、表現する。【思考力、判断力、表現力等】

○地方自治の仕組みや運営について、関わり方や課題について主体的に追究しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

4 単元（題材）の評価規準

○地方自治の仕組みに関わる資料を収集・選択するとともに、主権者の立場からその仕組みについて理解している。【知識及び技能】

○地方自治の仕組みや運営に関して多面的・多角的に考察し、表現している。【思考力、判断力、表現力等】

○地方自治の仕組みや運営について、関わり方や課題について主体的に追究しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

5 単元（題材）の指導計画（全6時間）

※「評価の観点」は、学習改善に生かす評価には●、評定に用いる評価には○を記す。

時間	○ 主な学習内容 ・ 主な学習活動	評価の観点			◇ 指導上の留意点
		知	思	主	◆ 使用教材
	<p>【ねらい】地方自治がどのような考えに基づいているか、地方自治の原則に着目して考察する。</p> <p>【主発問】地方自治は、どのような考えに基づいて行われているのでしょうか。</p>				
1	<p>○地方自治がどのような考えに基づいているか、地方自治の原則に着目して考察する。</p> <p>・「ゴミ収集」「伝染病予防」「防衛」などの行政の仕事カードをどの行政が分担することが適当かを考察し、国・都道府県・市町村ごとに仕事カードを分類する。</p>			○	<p>◇それぞれの仕事をどの行政で行うのがよいか、理由とともに考えさせる。</p> <p>◆「ゴミ収集」「伝染病予防」「防衛」等の仕事カード</p>

2	<p>○地方自治での二元代表制の特徴について、国の政治との違いに着目して考察する。</p> <p>・国の統治機構と地方自治の仕組みを比較しながら、二元代表制を取り入れている地方自治の仕組みについて考察させる。</p>		○	<p>◇国の統治機構と違い、二元代表制や直接請求権の有無などについて着目させる。</p> <p>◆「内閣-国会の仕組み」と「首長-地方議会の仕組み」</p>
3	<p>○地方公共団体の財政を支える収入について調べ、その格差について理解し、格差の解決のためにできることを考察・表現する。</p> <p>・都市部と地方では、自主財源の割合に大きな違いがあることを「府県と歳入とその内訳」のグラフから考察させる。</p>		○	<p>◇自主財源に関する地方公共団体間の格差について着目させ、自主財源を増やすための工夫について考えさせる。</p> <p>◆「都府県の歳入とその内訳」「市町村合併による市町村数の推移」</p>
4	<p>○住民の声を生かした政治を実現するために、どのような取組がなされるべきか考察する。</p> <p>・「主な住民投票の例」の表から、住民投票で問われた内容を比較しながら、住民の賛否が行政の運営に大きく関わっていることを考察させる。</p>		○	<p>◇「アメリカ軍基地」の受け入れなど、住民投票で問われた内容について、もし、自分の暮らす自治体で問われたらどう考えるかを考察させる。</p> <p>◆「主な住民投票の例」「日本のユニーク条例マップ」</p>

5 ・ 6	<p>【ねらい】群馬県の自主財源を増やす取組について調べ・発表しながら、集められた租税が身近な生活支援のために活用されていることを考察する。</p> <p>【主発問】群馬県の自主財源を増やすために、どのような取組があり、どのように自主財源が活用されているのでしょうか。</p>				
	<p>○群馬県の自主財源を増やす取組について調べ・発表しながら、集められた租税が身近な生活支援のために活用されていることを考察する。</p> <p>・「ぐんま緑の県民税」「個人版・企業版ふるさと納税」「ネーミングライツ」について調べ、発表し合いながら、自主財源を増やす取組や活用事例について理解させる。</p>		○		<p>◇自主財源を増やす取組の結果、集められたお金がどのように私たちの生活に還元されているのかについて触れられるように資料を作成したり、発表させたりする。</p> <p>◆「ぐんま緑の県民税」「個人版・企業版ふるさと納税」「ネーミングライツ」に関連する資料・HP</p>

6 本時の授業展開（6時間目）

※「評価規準」は、生徒の学習状況を見取るための規準（特に「おおむね満足できる」状況）を記す。

時間	○ 学習内容 ・ 学習活動	評価の観点			* 評価規準	◇ 指導上の留意点 ◆ 使用教材
		知	思	主		
1 0 分	<p>【ねらい】○群馬県の自主財源を増やす取組として、「ぐんま緑の県民税」「ぐんまふるさと納税」「企業版ふるさと納税」「ネーミングライツ」の4つについて調べた内容を発表し合いながら、財源の活用方法を考察する。</p> <p>【主発問】様々な取組によって集められた自主財源がどのように活用されているのでしょうか。</p>					
	<p>1. 本時のめあてをつかむ。</p> <p>○群馬県の自主財源を増やす取組として、「ぐんま緑の県民税」「ぐんまふるさと納税」「企業版ふるさと納税」「ネーミングライツ」の4つについて調べた内容を発表し合いながら、財源の活用方法を考察する。</p>					<p>◇これまでの経過を振り返り、生徒の課題意識を高める。</p> <p>◆PPを活用しながら、めあての提示や進行をする。</p>
3 0 分	<p>2. 学級全体で、自主財源を増やす取組や財源の活用方法などについて話し合う。</p> <p>①「ぐんま緑の県民税」</p> <p>・年700円（個人）年1400円～5600円（法人）を県民税から集める。</p> <p>・税込8.5億円（個人6.8億円・法</p>					<p>◇生徒が調査した自主財源を増やす取組を適切に理解できるようにするために、必要な説明を補いながら発表させる。</p> <p>◇税務署職員から自主財源を増やす取組の補足説明を受け、公正・公平に税</p>

	<p>人 1.7 億 円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林整備・森林環境教育の推進・森林ボランティア費用など <p>②「ぐんまふるさと納税」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の希望する自治体に寄付すると翌年の自分の住んでいる住民税が一部控除される。 ・税収約 2000 万円 ・例えば、子育て支援等に活用 <p>③「企業版ふるさと納税」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の希望する自治体に寄付すると翌年の法人住民税、法人税、法人事業税が一部控除される。 ・税収約 9300 万円 ・例えば、コロナ対策子どもの学習支援に活用 <p>④「ネーミングライツ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば年額 720 万円ほど払うことによって、公共施設に自分の名前を付けることができる。 ・収入約 2000 万円 ・施設の維持管理費に活用。 	○		<p>* 地方自治体の独自課税や様々な取組によって、地方のニーズに合った財源活用が行われていることを表現している。</p>	<p>が集められていたり、教科担当から身近な生活環境向上のために、自主財源が活用されたりしていることを理解させる。</p> <p>◆生徒作成 PP</p> <p>スライドの内容構成</p> <ol style="list-style-type: none"> ①取組名 ②仕組み・目的 ③金額 ④活用事例 ⑤感想 <p>◇税務署職員から、従来からの租税や地方自治体による独自課税によって、安定した財源が確保されていることを補足する。教科担当より、租税によって安定的に確保された財源を効果的に活用してきたことによって、世界有数の豊かさを誇る日本社会が実現されたことについて言及する。</p>
1 0 分	<p>3. 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。</p> <p>○本時で学んだことや次回の租税教室で明らかにしたい課題などについて記述する。</p>				<p>◇生徒に広めたい振り返りの意見を机間指導しながら取り上げ全体の場で発表させる。</p>

7 成果と課題

- ・租税が身近な生活の向上に役立てられていることを改めて実感することができた。
- ・将来の納税者としての自覚を高めることができた。
- ・生徒の追究意欲を高め、教員の資質向上を図ることができた。
- ・ふるさと納税等の財源について調査する場面において、未習の租税である住民税や法人税などの概要を理解している必要があったこと。

8 資料

※ 本時の授業等で使用したプリント（ワークシート）やスライド資料等を掲載

